

館長の志継ぎ 再開

津和野今昔館「ファンら」守っていく

津和野町田の博物館「津和野今昔館」が、大型連休に合わせて期間限定で再開した。所有者の岡村幸範館長の病気で昨秋から休館し、岡村さんは1月に75歳で亡くなった。伝統文化を残そうとした岡村さんの遺志を、地元の人やファンらが引き継いだ。

今昔館は、蓄音機や手回し型の電話、手動計算機などの機械、おもちゃ、ミシン、炭を中に入れてつかう

アイロンなど大正から昭和にかけての暮らしに密着したコレクション1200点を展示する。土壁や木



をふんだんに使った酒蔵風の屋敷で、旧津和野町職員だった岡村さんが自費で建て1992年に開館した。

岡村さんは生前、子どもたちが遊びに来ると展示品で遊ばせながら、当時の暮らしなどをここにこしながら教え、「岡村おじさん」と親しまれた。

今昔館で写真展示などをした「SLやまぐち地域振興会」や、館を設計した建築士で町伝統文化活性化協議会会長の百合本修司さん(74)らが再開をめざし、遺族にも働きかけて実現した。

百合本さんは「大正から昭和の文化の変遷を今に伝え、大人には懐かしく、若い人には当時の暮らしを知ってもらふ貴重な展示。みんなで守っていきたい」と話す。

6日以降は、7月末まで土・月曜に開館する予定。

その後は未定。一般300円、小・高校生150円。問い合わせは開館日に同館

(0856・72・327

8)へ。(伊藤周)

再開した津和野今昔館。レトロな生活用品などが並ぶ。津和野町田